

# 営農技術情報

平成30年 6月 6日発行

畑作（秋まき小麦） 赤かび病防除

上川農業改良普及センター名寄支所 TEL01654-2-4524  
JA道北なよろ TEL01655-3-2521

## 1 赤かび病の防除

出穂の始まったほ場が見られます。ほ場をよく観察して適期防除に努めてください。

**本年は高温推移のため、出穂後、すぐに開花する可能性があります。  
開花始とその後7日間隔で最低2回以上の防除を実施してください！**

- ①最も感染しやすい時期は、開花期前後です。
- ②感染前の穂に薬剤を十分付着させることが重要です。
- ③開花は通常、出穂揃から4～5日後に始まりますが、気温が高く好天が続く年では、出穂と同時に開花する場合があります。

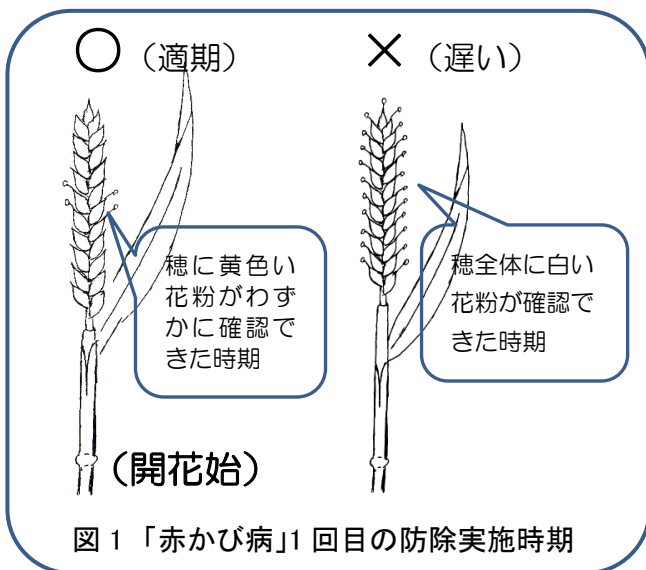


図1 「赤かび病」1回目の防除実施時期

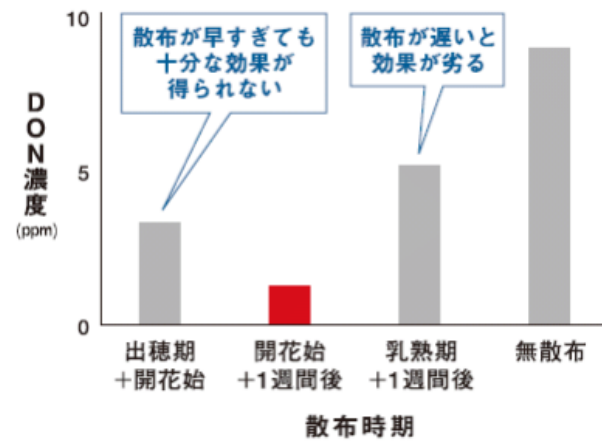


図2 薬剤散布時期とDON濃度

北海道米麦改良協会資料より引用

### 【赤かび病の防除体系】（H30. 6. 5現在）

散布時期	薬剤名	使用倍率	使用基準	
			時期	回数
1回目：開花始	シルバキュアフロアブル または、リベロ水和剤	2000倍 2000倍	収穫7日前	2回以内
			収穫7日前	3回以内
2回目：1週間後	トップジンM水和剤 または ベフトップジンフロアブル	1000～1500倍 800～1000倍	収穫14日前	出穂期以降2回
			収穫14日前	出穂期以降1回
3回目：2週間後	シルバキュアフロアブル または、リベロ水和剤	2000倍 2000倍	収穫7日前	2回以内
			収穫7日前	3回以内

## 2 アブラムシの防除

本年はアブラムシ類の発生が多くなる可能性があります。穂で2本に1本の割合でアブラムシが寄生している場合は減収するおそれがありますので、防除を実施しましょう。

### 【アブラムシの防除薬剤例】（H30. 6. 5現在）

薬剤名	系統名	使用倍率	使用時期	使用回数
エルサン乳剤	有機リン	1000倍	収穫7日前まで	4回以内
スミチオン乳剤	有機リン	1000倍	収穫7日前まで	1回

※ムギキモグリバエの防除で上記薬剤を使用している場合は、使用回数に注意してください。

### 3 「なまぐさ黒穂病」について

現在まで名寄地区では未発生ですが、全道で「なまぐさ黒穂病」の発生が相次いで確認されており、上川管内では旭川以南の地域で発生しています。

収穫時に発病した子実が混入すると、健全な子実も汚染されることとなりますので、出穂以降、以下のような症状が発生していないかをご確認下さい。

#### ○発病穂の特徴

- ① 感染した穂は健全穂に比べて草丈が低く、黒っぽく見える。また、穂の外観が「毛羽立って」いる。
- ② 1株の中に、健全穂と感染した穂が混在する。
- ③ 異臭がする。
- ④ 感染した穂の子実は、病原菌の胞子で充満されるため、膨らんでいる。  
また、つぶすと中から黒い胞子が噴出する。

万が一、疑わしい症状を確認された場合は、JAもしくは普及センターまでご連絡下さい。

JA本所農産課                      01655-3-2521

JA営農センター営農課        01654-3-4307

農業改良普及センター        01654-2-4524

#### 農薬安全使用 ～農薬を使うときの留意ポイント！～

- ①農薬使用基準を守りましょう
  - ・必ずラベルを読み、使用量・時期・回数を確認し、適正に使用しましょう。
- ②飛散防止に努めましょう
  - ・風の強さや風向きに気をつけましょう。
  - ・適切なノズル、圧力で散布しましょう。
  - ・散布の方向や対象作物との距離に注意しましょう。
  - ・散布量を守りましょう。
- ③散布後は器具を良く洗いましょう